

2024/4/28

はじめに

パウロは、この手紙の8章までを使い「救いの教理」の全体像を明らかにしました。パウロの手紙では、教理の後に適応（教理を踏まえて実生活の勧め）について書かれているのが常です。しかしこの手紙では、その間に3章を割いてあるテーマを挿入しています。それが9~11章の「イスラエルの救い」についてです。

9章の冒頭でパウロは自らの中にある苦悩を吐露しています。神はイスラエルを、人類を祝福するパイプ役として選ばれ、7つの特権をお与えになりました。①子とされること、②栄光、③契約（複数）、④モーセ律法、⑤礼拝、⑥約束（預言）⑦先祖たち（キリストもユダヤ人として生まれた）これらの輝かしい7つの特権がイエスはメシアであることを指し示しているのに、なぜイスラエルはイエスを拒否して救いから漏れてしまったのか。パウロの絶えまない痛みは、同胞イスラエルがメシアを受け入れないことにありました。彼は自分が身代わりになっても同胞に救われてほしいと願っていました。これは主イエスの中に見られる犠牲的な愛です。

私たちクリスチャンも、自分だけが救われれば良いとは考えません。家族に、隣人に、地域や同胞がイエスを救い主として受け入れて救われてくださることを願い、とりなし祈り、伝えることは神から与えられたクリスチャンの使命です。

さて、現在イスラエルがイエスを拒否しているということは、神の約束、計画は無効になってしまったということでしょうか。つまりイスラエルは神に見捨てられてしまったのかという重大な問題が出てきます。これは私たち異邦人クリスチャンにもかかわってくる重大な問題です。なぜなら、神の計画が途中で頓挫し、変更されることがあるなら、私たちの救いも変更されるかもしれません。つまり聖書の信頼性が失われてしまいます。

この問題に対してパウロは、今日の聖句で最初に結論を示してから、2つの例によって解説しています。

1. 二つのイスラエル

9:6 しかし、神のことばは無効になったわけではありません。イスラエルから出た者がみな、イスラエルではないからです。

しかし、神のことばは無効になったわけではありません、とあります。無効になるは、ギリシア語で「エグピプトウ」でコースから外れてしまうという意味です。神のご計画のコースが変更されたわけではないとパウロは言います。その理由は「イスラエルから出た者がみな、イスラエルではないからです。」実はここからパウロは神の選びについて説明を始め、11章の終わりまでそれが続きます。

前半に出てくるイスラエルは民族的なイスラエルを指しています。アブラハム、イサク、ヤコブから出た子孫のことです。後半のイスラエルは靈的なイスラエルのことを指しています。つまり真の信仰者のことです。聖書の中にはこの靈的イスラエルの別の呼び名があります。

神のイスラエル ガラ 6:16 この基準にしたがって進む人々の上に、そして神のイスラエルの上に、平安とあわれみがありますように。

レムナント（残りの者） イザ 10:22 たとえ、あなたの民イスラエルが海の砂のようであっても、その中の残りの者だけが帰って来る。

真のイスラエル ヨハ 1:47 イエスはナタナエルが自分の方に来るのを見て、彼について言われた。「見なさい。まさにイスラエル人です。この人には偽りがありません。」

現代イエスをメシアと信じるユダヤ人は**メシアニック・ジュー**と呼ばれています

歴史を振り返っても、イスラエル人として生まれるものが、すべて真の信仰者ではないとパウロは言います。誤解しやすいのは、この靈的イスラエルを教会と解釈し「イスラエルと教会」を対比していると考えたり、「イスラエルと異邦人」の対比と考える人もいます。しかし、文脈から考えますと、イスラエルという民族の中に、少数の信仰あるイスラエルが存在するという事です。ちなみに私たち日本人は靈的異邦人です。

イスラエル人であれば、神の特権から受ける祝福がありますが、救いは靈的イスラエルにのみ与えられます。イスラエル人全員がつかずいたわけではありません。不信仰になったのは、一部のイスラエル人で、信仰を持ったイスラエル人はいつの時代にも存在していま

した。そして、今もメシアニック・ジューと呼ばれる人たちが存在しています。神の約束は必ず成就するのです。

2. アブラハムの子どもたちの例

パウロは、二つのイスラエルがあることを示した後に、その具体例として、第一にアブラハムの子どもたちの例を挙げます。

9:7 アブラハムの子どもたちがみな、アブラハムの子孫だということではありません。むしろ、「イサクにあって、あなたの子孫が起こされる」からです。

アブラハムには8人の子どもがいました。妻は（女奴隷ハガル、正妻サラ、後妻ケトラ）ですが、聖書で大きく取り上げられているのは、女奴隷ハガルの子イシュマエルと、正妻サラの子イサクです。神はこの二人の息子の中でイサクを「約束の子」とみなされました。

子どものいなかったアブラハムとサラ老夫婦に、神は彼らの子孫が増え広がるという約束をしました。思い悩んだ挙句、夫婦は女奴隷のハガルを通してイシュマエルをもうけます。人間的に当時の常識に沿って行動したのですが、神はあくまでサラから生まれる子が子孫であると約束します。そして約束の通り、奇跡的にイサクが生まれます。

9:8 すなわち、肉の子どもがそのまま神の子どもなのではなく、むしろ、約束の子どもが子孫と認められるのです。

血筋としては、8人ともアブラハムを父としていましたが、神が御心にとめられる「アブラハムの子孫」は約束に基づいて生まれたイサクだけでした。神の選びです。

老齢にため子どもを期待できなかったサラに与えられた約束の御言葉は、

9:9 約束のみことばはこうです。「わたしは来年の今ごろ来ます。そのとき、サラには男の子が生まれています。」

これは、創世記 18:10 の引用です。イサクは、アブラハムの肉の子であると同時に、約束の子です。アブラハム契約を継承するのは、一人だけです。神はイシュマエルではなく、イサクを選ばれました。この二人は共にアブラハムの子でしたが、女奴隷の子と正妻の子という違いがあると思うかもしれません。それで神の選びの確かさが、行いにはよらず、召してくださる方によることを示すために、パウロはもう一つの具体例を挙げます。

それが、イサクとその妻リベカの双子の息子です。

3. イサクの二人の息子の例

9:10 それだけではありません。一人の人、すなわち私たちの父イサクによって身ごもったリベカの場合もそうです。

イサクとイシュマエルは母が異なる異母兄弟でしたが、エサウとヤコブは同じ両親から誕生した双子です。出生の状況が同じなのに、ヤコブだけがアブラハム契約の継承者として選ばれました。

9:11 その子どもたちがまだ生まれもせず、善も悪も行わないうちに、選びによる神のご計画が、

9:12 行いによるのではなく、召してくださる方によって進められるために、「兄が弟に仕える」と彼女に告げられました。

これは、創世記 25：23 からの引用です。この聖句は、神の選びの確実性を教えています。彼らが誕生する前から、行いによらずに、ヤコブに対する神の選びがありました。

9:13 「わたしはヤコブを愛し、エサウを憎んだ」と書かれているとおりです。

これは、マラキ書 1：2～3 からの引用です。「愛し」、「憎む」という言葉を誤解してはなりません。「憎む」とは、感情ではなく、理性的判断です。「愛し」とは、神の選びがあったこと、「憎む」とは、神の選びからもれたことを示しています。

このように、アブラハム契約の継承者は複数ではなく、一人の息子です。神は主権によって、弟のヤコブを選ばれました。聖書の歴史を振り返ると、少数の者が選ばれてきたことが分かります。①イシュマエルではなく、イサクが選ばれました。②エサウではなく、エサウではなく、ヤコブが選ばれました。③肉のイスラエルの中から、霊的イスラエルが選ばれました。パウロがここで扱おうとしているのは、「神の選びの神秘」です。しかもこの選びは人の願いや努力によるのではないということを伝えようとしているのです。

このような神の選びは生まれてくる子どもの行いや能力によらず、またその子の願いや努力によらず、ただその子をその子として生涯愛し続けようという決意する親の心に似ています。つまり神の民とは、神が愛そうと決意なさった人々ということです。

たとい優れた才能を持っていても親の愛を受け取らなければ、人の心はねじ曲がっていくでしょう、しかしたとい何もできなくても、ひたすら愛されて生きる人の一生は幸せに満ちたものとなるのではないのでしょうか。それこそが神の民の幸いなのです。

最後に

先週の水曜日に、京都劇場で劇団四季 70 周年記念の「ジーザスクライストスーパースター」を妻と鑑賞してきました。

聖書を題材にイエス・キリストの最後の 7 日間を描いた、台詞のない音楽と歌曲のみで物語が進行するロック・オペラで、アンドリュー・ロイド・ウェバーが作曲、ティム・ライスが作詞をそれぞれ担当。福音書の受難に関する記述、ジーザス・クライストおよび他の登場人物の心理の描写、ジーザスの弟子たちに対する教えに不満を持つユダの物語を大まかに基にしている。

商業作品であり、伝道のために作られたものではありませんから、クリスチャンが観ると引っかかる場所は多くあります。人間イエスとユダの葛藤が描かれていて、罪の贖いによる救い、復活の命などは描かれていません。ただ、舞台演出、照明、役者の身体能力や歌、コーラスのアンサンブルは素晴らしかったです。聖書もキリストについても何の知識も持っていない人が このミュージカルを観てイエスキリストに関心を持ち、聖書を読んだり、教会に足を向けてくださるようにと祈られました。

イエスが鞭打たれるシーン、十字架にかけられるシーンを生の人間が再現しているのを見ると心に神の愛が迫ってきます、「この会場にいるすべての人のために、イエスはあんなにも鞭打たれ、十字架で罪を贖ってくださったんですよ」と思わずにはおられません。

最後に、自殺したユダが黄泉から十字架にかけられたイエスを指して会衆に呼びかけるシーンがあります。

「ジーザス・クライスト ジーザス・クライスト

誰だ あなたは誰だ あなたは誰だ？あなたは何を犠牲にしたのか？

ジーザス・クライスト スーパースター

あなたは自分のことを

ジーザス・クライスト スーパースター

聖書のとおりと思うの」

この歌詞が、私には会衆に向かって「あなたにとってイエスは誰だ」と問いかけられているように感じました。イエスはある人にとっては、ただの人間で大工の息子でしょう、祭司やパリサイ人にとっては神を冒瀆する先導者。歴史上稀にみる宗教家だと考える人もいるでしょう。愛する兄弟姉妹、あなたにとってイエスとは誰ですか。

私にとってイエスはまことのメシアです。私のすべての罪と恥をその身に負って激しく鞭うたれ、十字架で命をささげて私の代わりに死んでくださり、墓に埋葬され、三日目に罪と死に勝利して復活された救い主です。

キリストは万物の上におられ、とこしえにほむべき神です。

この朝、私たちは神が常に弱い者、下の者から選んでおられることを学びました。神はご自分の主権により、常に弱い者、下の者を選ばれます。イシュマエルではなくイサクを選び、エサウではなくヤコブを選び、肉のイスラエルではなく霊的イスラエルを選ばれました。私たちもまた取るに足りない者でしたが、神はキリストにあって私たちを選んでくださいました。神の選びは確かであり、永遠に変わることがありません。

救いとは神の選び（恵み）に対して信仰で応答することです。